

令和4年度 地域包括支援センター 業務チェック票 センター名:ひよし

1 センター記入欄

①独自に取り組んだ項目・特に力を入れた取り組み

- ・広報「包括ひよしの新聞」を3回にわたり、日吉町へ全戸配布することとした。編集にむけて包括内で協議する機会を設け、時節や地域課題を踏まえ周知したい内容を精査した他、見やすさ、親しみやすさを意識した内容とした(前年度より3か年かけてエリア全域へ同様に全戸配布を行う計画)。
- ・介護予防教室で、平素相談支援でつながりのある回復期リハビリテーション病院のリハ職に出講頂き、講師役をつとめて頂くとともに地域を知って頂いた。
- ・ケアマネジメント支援において、意識的に個別支援会議を開催し、支援に必要なネットワーク強化をはかった。ケアマネジメント支援実施記録について、文例等を用いて記録記載に統一性を持たせ、支援内容を容易に抽出できるようにした。
- ・個別の支援を通じて把握した、具体的な生活課題を包括内会議で共有し、包括内でできることについて意見交換し記録に残すようにした。同事業実施について、独自のQAツールの利用・情報の更新をはかり、包括内部で随時確認できるようにしている。

②地域課題を踏まえ取り組んだこと・特に意識的に取り組んだ地域との関わり

- ・都営住宅集会室にて、相談機会を設定した他、集いの場メンバーの意見を得て、携帯電話会社の協力を得て、スマートフォン活用するための講座を開催した。
- ・転倒・介護予防教室等の案内を、自治会掲示板に掲示し地域への周知を試みた。
- ・小地域ケア会議で、地域課題を踏まえた架空事例を通して地域で必要な取り組みや関係機関間の役割や活動について相互理解を深めるよう働きかけた。地域福祉コーディネーター、権利擁護センター、障害者基幹相談支援センター相談員の参加を得て、医療・高齢介護福祉と権利擁護、障害福祉関係者間の相互理解と顔の見える機会を設け、地域課題を共有・協議することができた。
- ・生活支援コーディネーターと認知症地域支援推進員が市民メイトを後押しし、イベントを継続開催した。開催前には市民メイトと企画会議を開催し、イベントの企画運営や、認知症普及啓発月間での認知症サポーター養成講座やステップアップ講座での活動報告の内容について検討する機会を設けた。

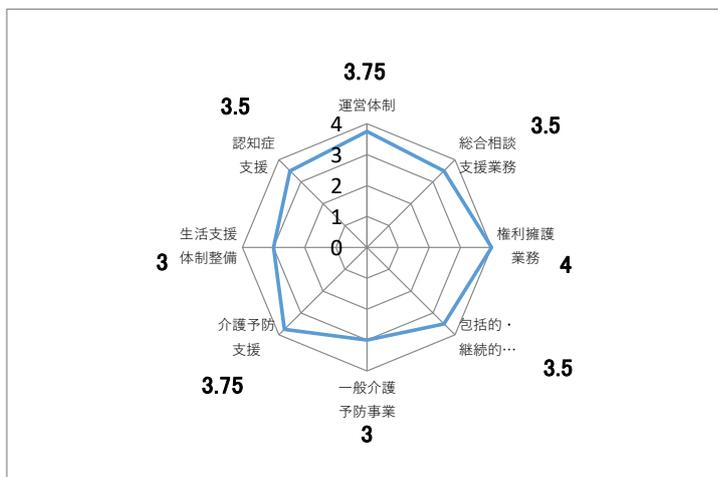
③取り組みから見えた成果・解決に進んだ課題

- ・広報をみて認知症サポーター養成講座や地域活動への関心を持った方より包括へ相談が持ち込まれた他、広報を保管し必要な時に問合せできるようにしている方を把握した等包括の周知を深めることができたと思われる。内藤・戸倉(中西北地区)両自治会より掲示板活用の了解を得た。
- ・都営住宅集会室でのアウトリーチ活動を知った都営住宅巡回管理者と包括職員が交流機会を得て、巡回管理者人と包括、1層生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーターとが顔を合わせる機会を設け、JKKの活動について理解を深めた他、今後の連携方法について確認することができた。
- ・地域のリハ職、病院のリハ職に予防教室講師を担って頂くことで、地域と医療機関双方にとって、身近な存在となり関わりやすくなることを期待した。
- ・課題への対策にむけて意識して個別支援会議を開催したことで、支援チームのネットワーク強化や、支援チームの課題の理解を深めることができた。
- ・認知症サポーター養成講座とステップアップ講座で、市民メイトが活動報告できるよう支援した。
- ・日吉町内で活動の場所探しに努めたが、新たな活動場所の発見はできなかった。既存の会場は、鍵の管理や新型コロナウイルスの影響で解放されないまま等課題が残っている。

④次年度取り組みたい項目(事業計画への反映)

- ・広報紙の戸倉地区への全戸配布の実施。配布実施後の効果を振り返り、今後の周知方法の検討する。
- ・随時案内できる包括ひよしのパンフレットを作成する。
- ・都営住宅集会室を活用した相談会等の開催継続、戸倉・日吉地区への出張機会の確保と内容の再検討。
- ・フレイル予防の観点より介護予防教室の継続開催や地区特性を捉えた普及啓発の工夫により新たな担い手発掘、集いの場グループ立上げにむけた地域への働きかけ。地区内の介護予防推進員の活動が促進されるように懇談会の開催等を企画する。
- ・個別の支援を通じて具体的な生活課題の把握と積み上げ、課題対する取り組みについての積み上げを継続する。
- ・本人主体の支援のために希望を持てる認知症サポーターステップアップ講座の企画・開催、地域の医療機関への認知症地域支援推進員・関連事業の再周知。
- ・地域より把握した地域課題の解決に向けて、具体的な取り組む。
- ・包括内に設置している地区内の資源マップを刷新する

2 結果



※ グラフは各質問項目の
平均値にて作成。

平均値	3.50
-----	------

3 市による確認結果

令和5年3月24日に地域包括支援センターにヒアリング実施。
活動場所不足という課題に対し、公共施設に空き時間がないか情報収集し住民へ情報提供できるようまとめたり、神社や社協等にアプローチしたということを確認した。
認知症の方の家族の交流の場である『らくだの会』を市民メイトが主となって開催できるよう支援した。また、認知症サポーター養成講座やステップアップ講座で、市民メイトが活動発表する活躍の機会を作った。
担当エリアの都営住宅について、住民ニーズに合わせた講座や出張相談を開催する等集客の工夫をし集いの場への勧奨を行ったということがわかった。
8050世帯の支援を地域課題と捉え、関係機関と課題共有し支援のネットワークづくりに取り組んだ。

4 運営協議会からの意見

5月19日に開かれた、第1回国分寺市地域包括支援センター運営推進会議の資料として提示。
自己評価結果に相違なし。

5 市による総評

市の事業実施方針に基づき、包括的支援事業が円滑に実施できている。
また、西地区のリーダーセンターとして会議の運営・調整を行うほか構築した地域ネットワークを活かしながら中心的な役割を担っている。